

拝啓 今年も早や11月下旬、晩秋の候となりました。お変わりございませんか。いつもエンカウンターをお読みいただきありがとうございます。近所の公園では、朝の散歩の時、太陽の光に輝く紅葉が特にきれいです。

今月は、「ミス・ローラ・J・モーク その信仰と生涯」(7)をお送りします。今回の追想録の中には、エルマー先生による追憶が含まれています。それによりますと、モーク先生は、夏軽井沢に滞在中は、毎朝散歩に出かけ、祈りの場所を決めておられたとあります。散歩は、祈りの時間なのです。小西先生の「わが主イエスは」は、散歩の祈りと非常によく合います。「行住座臥」いつも「わが主イエスよ」と唱えよ、というのが小西先生の教えと思います。

11月3日には、学士会館で、第8回南原繁シンポジウムが開かれました。250名ほどの参加者があり、満員の盛況でした。鴨下重彦先生(東大名誉教授・元医学部長)が、「内村、南原、矢内原 その思想と信仰の現代的意義」という題で、1時間の講演をされました。パワーポイントを使った、わかりやすく、かつ志を高く掲げよ、という感銘深い講演でした。鴨下先生は、御病気で入院先から車椅子でお見えになり、力を振り絞っての講演でした。しかし、最後まではっきりした声の力強い講演でした。

ところが、1週間後の11月10日に、急逝されました。講演がお身体に負担をかけたかと思うと、誠に心が痛みます。12月4日に、国際基督教大学の礼拝堂でお別れの会が開かれます。そのあとのお茶の会で、本誌読者の佐藤昭夫さんにとって頂いたDVD(ビデオ)が、上映されることになっています。

鴨下先生には、平成14年に南原研究会が始まったときからお世話になりました。謙遜である一方御主張が明快でリーダーシップを発揮され、事務的な事にも細かく気配りされる素晴らしい先生でした。教育者として若い人を育てるのがお上手だと感じました。私が南原研究会で活躍できているのも鴨下先生のお引き立てとご指導のおかげです。60代になって、すばらしい先生に出会え、ご指導を受けることができ、本当に幸せでした。

鴨下先生は、日本100名山を二順もされ、2回目は奥様とごいっしょに達成され、300名山も達成され、深田クラブの会長という、日本でも指折りの登山家でもあります。一度だけ御一緒に石割山に行きました。また、4年ほど前、南アルプス南部を縦走した際、最南端光岳の麓で、聖岳に向かわれる鴨下先生御夫妻と落ち合う予定でしたが、最後の日に台風が来て、私たちが計画を変更して下山しました。あの時強行すべきであったかと、今は悔やまれます。

間もなく冬となります。季節の変わり目、どうぞお身体御自愛下さい。

平成 23 年 11 月 26 日

山口周三

エンカウターの読者各位